令和6年第4回教育委員会会議

1 日 時

令和6年4月23日(火)
開会 14時00分
閉会 15時30分

2 場 所

県庁行政庁舎 17階 教育委員会室

3 出席者

北野喜樹教育長、新屋長二郎委員、眞鍋知子委員、新家久司委員、高野勝委員、辻奈穂子委員

4 説明のため出席した職員

原敬教育次長、塩田憲司教育次長、金子俊一教育次長、北島公之教育次長兼学校指導課長、筒井諒太郎事務局課長、山本一彦庶務課長、高倉英明教職員課長、岩木智子生涯学習課長、池田正明文化財課長、瀬戸博邦保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第10号 令和7年度使用教科書の採択方針について（原案可決）

6 報告

報告第1号 令和7年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について
報告第2号 体罰に関する調査について
報告第3号 令和6年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について
報告第4号 石川県立あすなろ中学校の校章デザイン決定について
報告第5号 令和4年度～令和5年度石川県社会教育委員の会議のまとめについて
報告第6号 令和5年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

北野教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第10号は教科書採択に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

報告第1号 令和7年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について（高倉教職員課長説明）

それでは、お手元の資料15ページをご覧ください。

報告第1号令和7年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験の実施についてご説明いたします。

まず、1の公立学校教員採用候補者選考試験についてであります。

(1)の「試験期日等」につきましては、出願受付は4月30日火曜日から5月31日金曜日、7月20日土曜日、21日日曜日に筆記試験および実技試験、8月3日土曜日または4日日曜日に面接試験、模擬授業とか個人面接を行い、9月27日金曜日に結果の発表・通知を行うこととしております。

(2)の受験区分、募集許可につきましては、記載の通りであります。

昨年度まで栄養教諭の選考試験は別途実施しておりましたが、今年度実施の試験より受験区分「栄養教諭」として実施いたします。

(3)「採用見込み数」につきましては、5月1日の児童生徒数の確定等を踏まえてから決定し、5月上旬ごろにホームページ等で発表することとしております。

(4)の受験資格につきましては昨年度実施の試験より60歳未満としております。

(5)の選考区分につきましては、一般選考のほか、9つの特別選考を設け太字で記載してある特別支援区分AとDが昨年度との変更箇所となっております。

(6)の前年度との主な変更点の箇所をご覧ください。

1点目の「本県講師等として勤務する受験者を対象とした特別選考」であります。昨年度実施の筆記試験におきまして、総合教養の成績が基準に到達し、かつ今年度中に本県の講師等として11ヶ月以上の勤務を見込む者に対して総合教養を免除するものでございます。

2点目の特別選考区分Dであります。小学校教諭の倍率ですが、近年徐々に低下してきている現状もあり、優秀な教員を確保することが求められております。

そのため昨年度から「大学3年生を対象とした特別選考」を小学校教員の方で実施しております。

その試験で基準に到達したものに対して今年度実施の試験では面接試験のみを課すものでございます。

これら2点の対応により、大学4年生や講師の方々の負担を軽減することができ、受験しやすくなるのではないかと考えております。

3点目としましては、今年度より出願を全てインターネットによる電子申請で行うことといたしました。これは志願者の手続きによる負担をできるだけ軽減するためです。

次に2の「理療科教諭の選考試験」についてであります。

理療科とは、盲学校において、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を養成する課程であり、理療科教諭等の採用試験は、今後の退職状況を見据えまして5年ぶりに実施することといたしました。

この選考試験につきましては、先ほどご説明いたしました教員採用候補者選考試験と同日に実施を予定しております。

最後にこれらの実施案内は4月25日、明後日より県庁等で配布いたします。

また、多くの方々に本県教員を目指して受験していただくため、昨年度は、春には県内外の23大学、秋には主に大学3年生を対象として、オンラインでの説明も含め、県内外の33大学において説明会を実施いたしました。

今年の春も、県内外においてできるだけ多くの大学を訪問し、教員のやりがいや充実した研修制度、石川県の高い教育力についてアピールしていくとともに、多くの大学生が登録している「いしかわ就職定住サポートセンター（ILAC）」を通じて、様々な情報をメールで配信したり、県ホームページで石川の教育をアピールする動画を配信したりすることで、さらに多くの学生に、本県の教育や教職の魅力を伝え、優秀な人材の確保に繋げていきたいと考えております。

また、豊富な経験を持つ指導員のもと、教員の心構えや実践的な力を身につけるために、いしかわ師範塾を開講し、本県で教員を目指す優秀な人材の確保にも努めているところでございます。

選考に当たりましては、教員として豊かな教養と専門的知識を有することに加え、児童生徒に対する教育的愛情をもち、健康でたくましく、指導力・実践力のある人材を採用していきたいと考えております。以上で説明を終わります。

【質疑】

(新屋委員)

特別選考のAの講師の方の選考についてですけど、他県でもどのくらいの県がこういう選考をされているのかわかりましたらお願いします。

(高倉教職員課長)

手元に正式な資料を持っていませんが、全国的に講師についても、半数以上はと思っています、他県照会したときにはそういうふうが増えてきている状況でございます。

(新屋委員)

今の件ですけれども、まだわからないと思うんですけど、どのくらいの人数になるかとかそういう想定はあるんですか。

(高倉教職員課長)

すいません、今どこまでという想定はしていません。

(高野委員)

同じくAなんですけども、候補者本人は自分は総合教養の成績が基準に達していて、その免除されるということは本人はわかっている候補者選考に臨んでいるということですか。

(高倉教職員課長)

昨年度の段階で受験された方には、基準に到達しているかどうかの連絡は行っています。

報告第2号 体罰に関する調査について（高倉教職員課長説明）

それでは次に報告第2号「令和5年度分児童生徒に対する体罰性暴力に関する調査」につきましてご説明いたします。

資料17ページをご覧ください。

県教育委員会では、平成24年度に文部科学省の要請により実施しました「体罰に関する実態調査」を平成25年度以降も独自に実施するとともに、令和5年度からは「教職員による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」に基づき、「性暴力に関する調査」も併せて実施することとしております。

資料の1「発生件数および処分状況等」をご覧ください。

令和5年度に発生した体罰につきましては、中学校で1件、高等学校で3件の計4件を確認しており、いずれも文書訓告の措置を行い、厳しく指導したところであります。

性暴力につきましては中学校で1件確認しており、すでに懲戒免職の処分としております。なお過去の報告件数は参考として記載しておりますが、体罰については、年間2件から6件で推移しているものであります。

次に2の「場面」をご覧ください。

体罰につきましては発生した場面としましては、授業中、部活動中、放課後、その他で各1件ずつとなっております。

性暴力につきましてはその他で1件となっております。

具体の体罰の内容につきましては、まず中学校の1件は、本年2月の終礼後、窓からプリントを投げ捨てた生徒1名の制服の肩をつかみ、拾ったプリントを当該生徒の頬に押し付け、制服の襟元から押し入れようとしたものです。

次に高等学校の3件につきましては、1件目としましては、昨年7月、顧問をする部活動の練習中、注意しても真剣に取り組まない部員に対し、運動用具で防具越しに胸元を小突き、防具を掴んで立たせようとした際、生徒が尻餅をついて手をついた際に右の手のひらを擦りむく軽傷を負わせたものです。

2件目は、昨年10月、生徒指導中に反抗的な言動を行った生徒1名に対して、持っていたボールペンを投げて、当該生徒の手の甲に擦り傷を負わせたものです。

3件目は、昨年10月、始業に遅れて廊下を走っていた生徒2名に対し、急かす発言をしながら、足で小突いたことにより、うち1名の生徒の右手親指に当たり爪に軽傷を負わせたものです。

性暴力については、当時18歳未満の女性1名に対して、わいせつな行為を行ったものであります。被害者保護の観点から詳細については控えさせていただきます。体罰や性暴力は、法令の遵守を要請され、保護者から生徒の教育を託された教育公務員としてあるまじき行為であり、また県民の皆様の教育に対する信用を失墜せしめる行為であり、今後ともあらゆる機会を通して厳しく指導してまいりたいと考えております。

【質疑】

（眞鍋委員）

アンケート等にと書いてあるんですけども、実際にアンケートで明るみに出たケースというのは、どれぐらいあるんでしょうか。アンケート以外のものはこれに載ってない？

例えば、そのアンケートを取る前に、そういう体罰があったと校長先生から、県教委に報告があったケースとか、そういうものがこれには含まれてないと思ってよろしいんですか？

(北野教育長)

実際ですねアンケートをとっています。きちんととっていますし、こういう体罰・性暴力に関するアンケートとか以外に、生徒さんに学級終わりとか、いろんな機会をとらえていろんなアンケートをとっています。

いじめであったり体罰であったり。そんな中で、わかるものもありますし、実際、体罰なんかでも、先生が怒りに駆られて結果的に体罰になったけど、すぐ反省して、そのまますぐ管理職に報告してわかったものもあります。両方混じっています。そういう状況なんで、どれがどれというのは、ちょっと今すぐわからないですけども。

(眞鍋委員)

アンケートをするまで表に出てこなかったケースがあるのかなというのが知りたかったという趣旨でした。

(高倉教職員課長)

アンケートは1月に行っていますので、4月からそこに行くまでは、体罰に当たると思われるケースが出た場合はこちらに連絡が回ってきます。それに対しては一つ一つ聞き取り等対応をしているところです。1月の調査になったときに新たに出てくるものもあり、結局トータルでこの件数になっている。

(眞鍋委員)

アンケートとか、すごく多いわけですよ。いろいろなものに関して、きちっと取らなければいけないものもあるでしょうけれども、今ちょっとお聞きしていると複数回取っているというお話ですけど、何かそういうことが、いちいちなんか現場の負担になっているのではないかなというふうにちょっと思いまして、このアンケートで聞くってのはどれぐらい発見できるのだろうかということがちょっと知りたかったというところになります。アンケートするなど言っているわけではありません。

(北野教育長)

このアンケートは先ほど申し上げたように年に1回やっています。正式にこういう形で調査をするということでやっています。それとは別に、いろんな機会を捉えて、体罰とかに限らず、いじめであったり、単に悩みはないかみたいなこともやっています。過度の負担にはならないように注意しながらやっていきたいと思っています。

(高野委員)

令和5年度から性暴力等の防止等に関する調査ですけれども、この調査というのは児童生徒それから保護者、教職員どんな方々を対象にして、どんな聞き方をしているんでしょうか？

(高倉教職員課長)

調査項目の中にどのようなことを受けましたかという項目がありまして、新たに、性的な部位を触る。とか、キスをする。とか、着替えトイレを覗く。という新たな項目を付け加えまして、その中で細かいところを加えて聞いている。

(高野委員)

その項目というのは小学校一年生から高校生まで同じ内容で生徒に送っているのでしょうか。

(高倉教職員課長)

基本これが原則で送っていますが、学校によっては、校長の方からこんなふうによっと文章を変えていいかっていうことで、特別支援学校、小学校、中学校で若干変えてると聞いています。

(高野委員)

この1件というのはそのアンケートから出てきたんですか。

(高倉課長)

これはそのアンケートにも書かれましたが、事前にもう既に公表したものができたものです。

(新屋委員)

体罰に関してですけれども、石川県の数は2件から6件くらいで大体安定している、無くなって欲しいわけですが、全国の状況と比較して、全国はどんな状況になってるんでしょうか。

それとあと最近ごくレアなケースだと思うんですが、部活動の指導なんかに関して、ちょっと行き過ぎた指導とか、報道なんかもよくあるような気がするんですけども、本県では、今のところないと思うんですが、多いとか少ないとかじゃなくてゼロに向けて、常に毎年毎年人も変わると思いますから、体罰とか、性暴力はもちろんですけれども、そういったことに関する指導をきちんとやっていただきたいとします。

(高倉課長)

まず最初の質問ですが、全国で体罰による懲戒処分等を受けたものは令和4年度の統計では397件ありました。石川県はそのうちの5件となっております。全国は平成24年度に全国一斉の体罰調査ありましたが、それ以降やっていない県も結構あります。それに対して石川県はそれ以降も毎年、年に1回の調査を続けているというの

が、一応少しは抑止力にはなっているというふうに思っています。あといろんな研修とか校長会等で、体罰・わいせつ行為については、強く未然防止に取り組むように周知しています。

(瀬戸保健体育課長)

補足になるんですけども、部活動については高体連、中体連それから高野連にも研修に入るようになりました。その際にも、体罰、ハラスメントについて、そういう注意喚起をしているところでございます。

報告第3号 令和6年度石川県立金沢錦丘中学校および石川県公立高等学校における
入学者選抜結果について（北島次長兼学校指導課長説明）

それでは資料の18ページをご覧ください

初めに1の石川県立金沢錦丘中学校についてですが、このように適性検査を令和6年1月28日に実施いたしました。

選抜方法につきましては、まず（2）にお示したように、小学校長から提出された調査書並びに中学校において実施された選抜するための総合適性検査1これは言語に関する力を見るものです。

そして2これは自然や社会、数理に関する力を見るものです。

この2種類の検査および面接の結果を総合的に判定し、入学者の選抜を行いました。

（3）の選抜結果ですが、この①に示しましたように、募集定員120人に対して252人が受検し、うち120人が合格しております。受験倍率は2.10倍でした。

下の②の郡市別内訳については、金沢市が74人と最も多く、次いで白山市が22人、野々市市が15人で計111人この3市で全体に占める割合が92.5%となっております。これまでとほぼ同様の傾向であります。

次に資料の19ページをご覧ください。

2の石川県公立高等学校における入学者選抜結果についてご報告いたします。

まず、学力検査等はこの資料（1）にお示した期日で行いました。

（2）の選抜結果であります。①の公立高等学校全日制については、募集定員7480人に対し、推薦入学等の内定者705人、そして一般入学の合格者5799人の合わせて6504名が合格しました。

なお、この欄外にあります令和6年度より実施の、外国人生徒等に係る特別入学については、受検者1名、合格者は1名でした。

また、追検査については、受検者は4人、合格者は3人でした。

②の定時制については、募集定員480人に対して267人が合格しております。

なお、外国人生徒等に係る特別入試については受検者1名、合格者は1名でした。

また、③の通信制については、募集定員240人に対して47人が合格しております。

なお、定時制、通信制ともに人数は1次募集までのものであります。

また、各学校別合格者数の状況につきましては、資料の20ページから21ページに全日制を、そして22ページに定時制、通信制を掲載してございます。

では最後に23ページとなりますが、（4）全日制の合格者の得点状況をご覧ください。

今年度の結果につきましては、①の教科別平均点にお示したように、社会と英語については平均点が前年度を下回りましたが、5教科合計は前年度より12点高い259点となっております。

5教科合計の分布は昨年と比べて200点以上の各段階において割合が増えておりまして、全体の分布を見ると、受検生の学力を適切にされる検査ができたものと考えております。

令和7年度の学力検査においても、問題を解決するために必要な活用力など中学校における授業の中で身につけるべき学力の方向性を示すとともに、今回の結果を踏ま

え、小学校や中学校で学んだ力を適切に把握できるよう、適切な出題に努めてまいりたいと考えております。

【質疑】

(新屋委員)

定時制の合格状況のところですけど中央高校の昼間制で倍率が1倍を超えて、このデータだけから見ると、何人か不合格になっていると思うが、その方はその後どういう対応ができたんですか。

(北島次長兼学校指導課長)

委員ご指摘の通り22ページの金沢中央高校昼間制のところですけども、受検倍率が1倍を超えました。平成21年度以来ということでした。当然そこで不合格になった受検生も発生します。その受検生については、第1志望、第2志望というのを書いてもらっておりまして、第1志望は午後部であるが、第2志望は例えば午前であるとか、夜間である形で書いてあればそこに回っていくという形になっております。残念ながら第2志望が白紙、書いてないっていう場合は、残念ながら不合格という形になります。実際に回っている生徒がかなりいるということです。

(新屋委員)

平成21年度以来と言われたが、定時制で倍率が1倍を超えたというのは私は記憶がほとんどないんですが、こういうことになった要因は何か考えられるんですか。

(北島次長兼学校指導課長)

平成21年度以来でございますけれども、我々もこれはなぜだろうということで学校等に聞き取りを行いました。要因としては、今まで全日制に出願していたと思われる不登校傾向の子供たちが、金沢中央高校の自由な環境の中で、自分のペースで高校生活を送りたいと考えて出願しているのではないかと、あるいは同じところに同じ22ページの下の方に通信制はございます。

通信制が実は出願者が減っております。通信制の出願者の減少を踏まえると、これまで通信制へ出願していたと思われる欠席数の多い生徒が一つの選択肢として、こうした定時制に出願したということも考えられるのではないかと学校では分析しております。

(新屋委員)

確認ですけど、定時制の入試というのはスケジュール的に最後の試験だと思うんで、ここで不合格になった場合は、例えば泉丘の通信を受けるとか、あるいは私学を受けるとかっていう、そういう選択肢しか考えられないでしょうか？

(北島次長兼学校指導課長)

定時制については2次募集がございます。1倍をこえていない学科について、2次募集を全て行っておりますので、そこに入るということになります。

(眞鍋委員)

今回の入試からだったかと思うんですけど、県立高校の6校ぐらいの学校が県外からの受検生も受検可というふうになっていたと思うのですが、その成果について教えてください。

(北島次長兼学校指導課長)

全国募集を実施した学校が7校ございます。

それで7校のうち4校に全国から人が集まっております。具体的には、志賀高校、七尾東雲高校、門前高校、能登高校でございます。

(新家委員)

高校の方は23ページに出てますんで要は学力検査というのが多分その影響が大きいんだろうと思うんです。比べてですね、錦丘は中学校からっていうふうなことだろうと思うんですが、学力選抜ではなくて、総合適性検査1、2っていうふうな形で学部選抜というのはいないんですね。

総合適性検査ってというのは、何に重点を置かれているのかっていうことを教えていただきたい。

(北島次長兼学校指導課長)

中学校の選抜につきましては、これは国の方からも学力検査を実施するなど指示されており、そういうことで我々はどんどん全国的に見てもそうなんですけど、総合的な適性検査という形で実施しております。したがって、この明確な学力云々ではなくて、そこで基本的な力、活用する力、そこに興味関心を持って取り組めるという身近な題材を踏まえて、興味を持って物事に対応していく。そういう力を見抜く作問にこちらとしても行っております。

(新家委員)

要は国の指導でもう学力検査ではないんですね。

(北島次長兼学校指導課長)

はい。

報告第4号 石川県立あすなろ中学校の校章デザインの設定について（北島次長兼学校指導課長説明）

それでは24ページをご覧ください。

石川県立あすなろ中学校校章デザインの決定についてご報告いたします。

デザインについては記載の通りです。

あすなろ中学校の校章については、県立高等学校の生徒を対象に9月25日から11月30日まで校章デザインを募集したところ、219人から222作品の応募がありました。

昨年12月には選考審査会を行い、県立工業高等学校工芸科 現2年生になりますが、東坂みひろさんのデザイン案を採用いたしました。

デザインに込めた想いや意図については左側の部分は三日月の形で夜間をイメージし、そして右側の部分はあすなろの葉とし、三日月と組み合わせると満月になるデザインにしたということ。また中央にはあすなろ中学校で学べることを誇りに思い、自分の夢や希望の実現に向かって、学んでいってほしいとの思いを込め、あすなろのイニシャルの「A」を大きく配置したデザインとしたということです。

なお、製作者には、先般、教育長より感謝状を贈呈し、校章として採用するとともに感謝の意を伝えたところです。

あそこに校旗がございますけれども、そのデザインを使った形でこのような形で校旗もあわせて作成しています。

【質疑】

なし

報告第5号 令和4・5年度石川県社会教育委員の会議のまとめについて（岩木生涯学習課長説明）

報告第5号「令和4・5年度石川県社会教育委員の会議における協議のまとめ」について、別紙のパンフレットを元にご説明申し上げます。

1 ページをご覧ください。

昨今、人口減少や少子高齢化、社会環境の大きな変化に伴い、人と人との繋がり希薄化による社会的孤立の拡大や地域コミュニティを支える人材の不足が大きな課題となっております。

そのような状況において、生涯学習を通じた人と人との繋がりや絆の深まりが誰一人として取り残すことのない社会的包摂の実現とそれを支える地域コミュニティの基盤作りに重要であることから「人と地域のウェルビーイングの実現をめざして～つながりが紡ぐ社会教育の在り方について～」をテーマとし、協議を進めることといたしました。主な取り組みとしては、令和2・3年度の石川県社会教育委員の会議でいただいた意見をもとに県で作成した、地域作りのプロセスとゴールを見える化するための「いしかわ地域づくりシート」を使って、地域住民による地域作りの手法を学ぶことをサポートするとともに、シートを活用した事業が推進された結果が「人と地域のウェルビーイング」に繋がったかどうかを協議することとしました。

2 ページをご覧ください。

石川県社会教育委員の会議の令和4・5年度の歩みについてです。

1年目は金沢大学名誉教授の浅野秀重先生から「いしかわ地域づくりシート」の中で、事業の企画を担う「モデルシート」がもつ、地域住民の学びを支援する側面が、人のウェルビーイングにどう繋がるかご教授いただきました。

次に岡山大学助教の柴川弘子先生からは、中学生がリーダーとして参画した取り組み事例をもとに、持続可能な地域作りについてご教授いただきました。そして、委員の皆様それぞれが所属する団体等における活動を踏まえ、人と地域のウェルビーイングの実現についてご意見をいただき、整理しました。

3 ページをご覧ください。

2年目は、橋立地区会館の「はしたてフェスタ」の実例と美川まちづくり協議会と美川小学校が協力して取り組んでいる「みかわ未来プロジェクト～空き家の利用～」の事例をもとに、「いしかわ地域づくりシート」を活用し、事業を計画・推進した結果が「人と地域のウェルビーイング」にどうつながるか協議してまいりました。

2年間のまとめとして、委員の皆様からは、

・「いしかわ地域づくりシート」を使って、地域を分析することが話し合いの土台となり、人や地域の幸せについて考えることが、人づくり・繋がりづくり・地域づくりの好循環を生むのではないかと。

・2年間の協議を経て、この取り組みが次世代のリーダーを発掘し、育てることに繋がると感じた。自分が所属する団体で今後もシートを活用し、広めていきたい。

・公民館活動をきっかけに地域住民繋がりが生まれ、普段から幸せを感じられる地域づくりに努めていくことが大切だと考える。

といったご意見をいただきました。

4 ページ以降には、県の取り組みの具体事例や詳細が載せてあります。

県としましては、人と地域のウェルビーイングの実現を目指して～つながりが紡ぐ社会教育が推進されるよう、今回作成したパンフレットを各市町教育委員会や公民館に配布するとともに、研修会等で活用してまいります。

【質疑】

なし

報告第 6 号 令和 5 年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について
(瀬戸保健体育課長説明)

報告第 6 号「令和 5 年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績」についてご報告いたします。

25 ページをご覧ください。

令和 5 年度全国高等学校選抜大会等につきましては、令和 5 年 12 月 22 日から令和 6 年 3 月 31 日までの期間、東京都ほか 21 道県において開催され、30 競技 465 名の選手が出場しました。

団体では、ソフトボール女子で金沢高校が準優勝、卓球男子で遊学館高校、相撲で金沢市立工業高校、ボウリング女子で金沢龍谷高校が 3 位となっております。

個人では、能登半島地震の影響を受けながらもウエイトリフティング男子 89 キロ級で飯田高校の山下選手が昨年に続き 2 連覇を達成した他、少林寺拳法女子規定単独演武で小松明峰高校の奥村選手が優勝しております。

また、ボクシング女子バンタム級で金沢高校の水上選手、ボウリング女子個人で金沢錦丘高校の市田選手、少林寺拳法弁論の部で小松明峰高校の奥村選手が準優勝をしております。

この他第 96 回選抜高等学校野球大会では、星稜高校が春の甲子園県勢初となるベスト 4 進出を果たしております。

なお、一番下の表は、過去 5 年間における入賞者数の推移であります。

今後も夏の北部九州インターハイや秋の佐賀国民スポーツ大会など全国大会において、本県の高校生の活躍を期待するとともに、県高体連をはじめ関係団体との連携を一層深めまして、効率的・効果的な運営による運動部活動の充実に努めてまいりたいと考えております。

【質疑】

なし

(北野教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 10 号 令和 7 年度使用教科書の採択方針について

北島次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

北野教育長が閉会を告げる。